

報告書

令和6年8月19日（月）から21日（水）まで会派の行政視察のため、広島県三次市、鳥取県大山町を視察しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

令和6年9月9日

美祢市議会
議長 荒山 光広様

新政会

会長 戎屋 昭彦
荒山 光広
三善 庸平

1. 視察の目的

今回は2つの自治体を視察した。それぞれの理由を下記に記す。

（広島県三次市）

現在美祢市には美術館が存在せず、芸術、美術鑑賞に触れる機会に乏しい現状がある。美術館の所在が地域再生の手段の一つでもあることから、その設立経緯、運営体制を学び、今後の町づくりの参考としたいため。

また、数ある美術館でも広島県三次市にある奥田元宋・小由女美術館に焦点を当てたのは、企画展として美祢市出身の久保修氏の作品が展示されており、今後美祢市で美術館の必要性を考える場合は、実際の運営、実施状況も参考になり得ると考え今回の視察先とした。

（鳥取県大山町）

美祢市は秋芳洞、秋吉台を含めた観光資源に恵まれ、全国各地から観光客が足を運んでいる。しかし、秋芳洞の入場者数は1975年度の約198万人をピークに減少傾向にあり、2023年度の入洞者数は40万5,000人である。観光客増加に向けて様々な施策を打ち出しているが、なかなか上昇傾向に向かっていけないため、引き続き対策する必要がある。

今回、大山町に視察を決めた目的は、大山町には大山という自然景観を誇る観光地を有しており、美祢市における秋吉台と自然景観という点でリンクしている。また、自然景観を武器に観光を伸ばす戦略も美祢市に似通った戦略と言える。さらにアウトドアメーカーとのタイアップによるキャンプ場誘致など、踏み込んだアウトドア戦略も見受けられることから鳥取県大山町を視察することに決めた。

(1) 美祿市の現状

・文化施設について

美祿市に所在する文化施設は下記のとおりである。

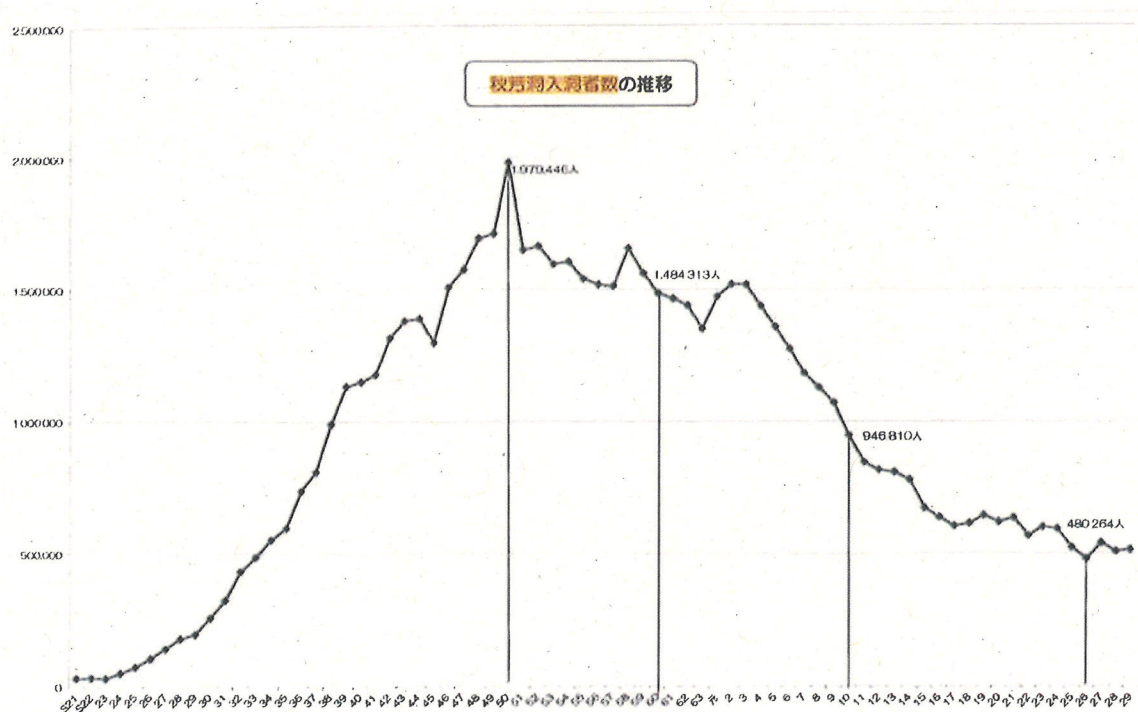
- ①美祿市歴史民俗資料館
- ②長登銅山文化交流館（大仏ミュージアム）
- ③秋吉台エコ・ミュージアム
- ④美祿市化石館
- ⑤秋吉台科学博物館
- ⑥秋吉台国際芸術村（県営）

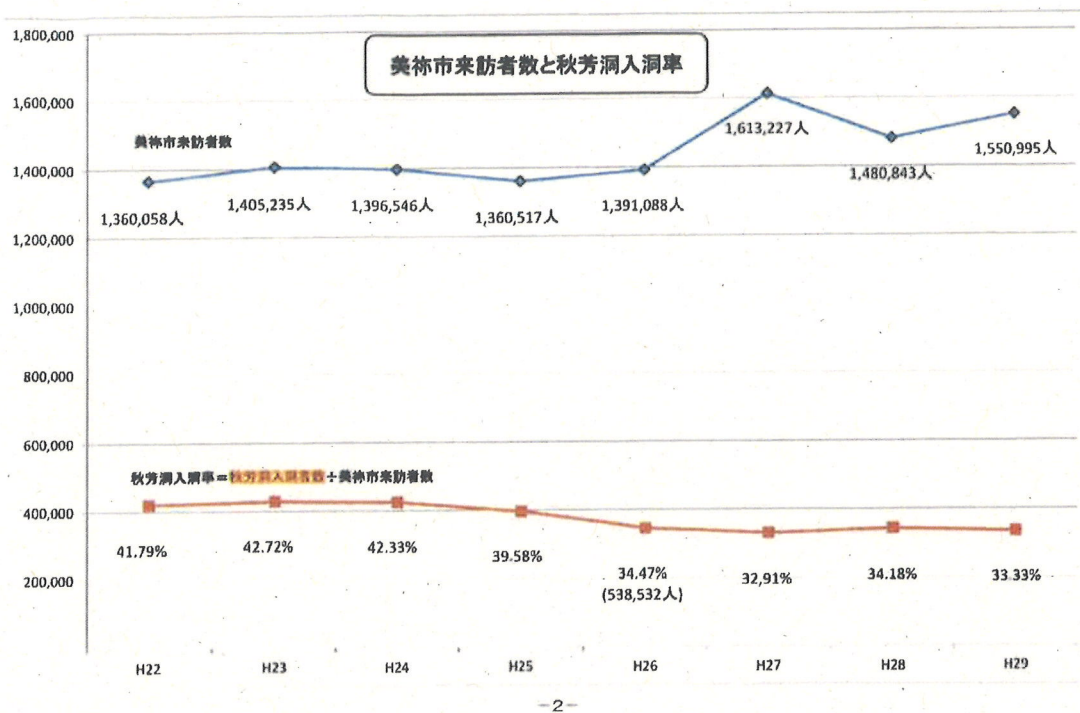
秋吉台、長登銅山等の観光名所や地質や歴史について学ぶことができる施設がメインに所在しており、芸術方面では県営の秋吉台国際芸術村がある。

秋吉台国際芸術村は、世界に開かれた芸術文化の創造と発信の場として、音楽、美術、ダンス、演劇など幅広い芸術文化活動に対応できる滞在型芸術文化施設である。

・観光について

秋芳洞入洞者数推移





令和4年度実績

年間入洞者数（3洞）	382,407人
秋芳洞入洞者数	366,223人
大正洞入洞者数	6,427人
景清洞入洞者数	9,757人
観光事業収益	453,060,856円
観光事業費用	468,847,662円
営業損失	15,786,806円
経常利益	51,343,527円
当年度純利益（又は純損失）	51,343,527円

2. 視察先の取り組み（三次市）

・広島県三次市

人口：48,565人（男性：23,437人 女性：25,128人）

世帯数：23,122世帯

面積：778.18平方キロメートル

気候：年間平均気温14.6℃

最高気温37.5℃

最低気温-7.6℃

年間降雨量1424.5ミリメートル

・財政状況

一般会計歳入総額：414億3,481万円

一般会計歳出総額：398億4,449万円

普通会計市債残高：444億円

普通会計基金残高：170億円

実質赤字比率：赤字なし

連結実質赤字比率：赤字なし

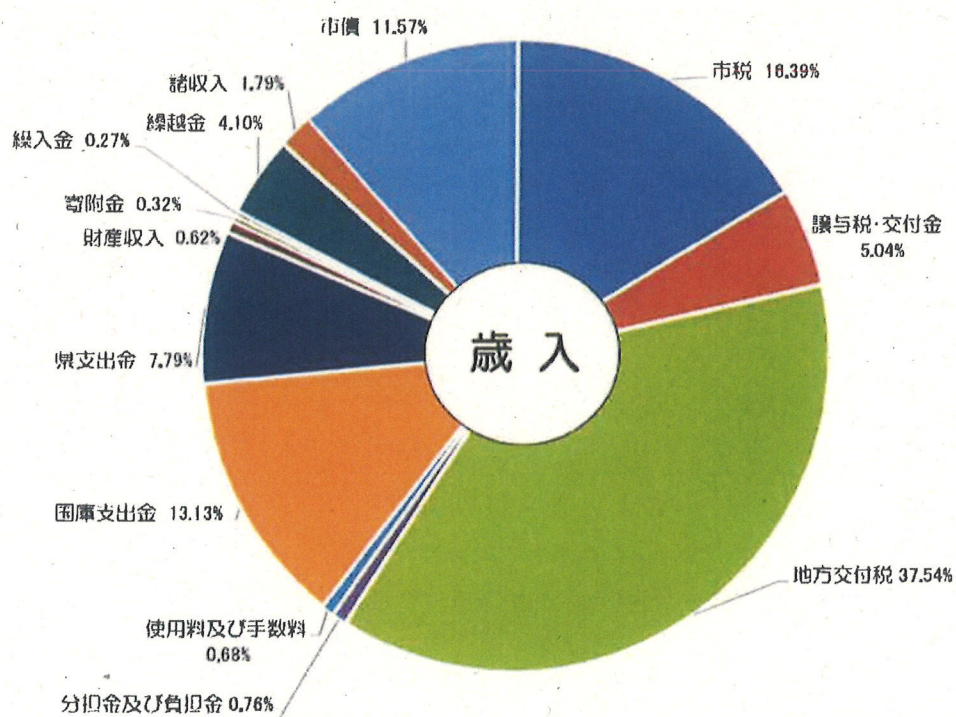
実質公債費比率：7.0%

将来負担比率：23.0%

財政力指数：0.334

経常収支比率：98.4%

【歳入の内訳】



【歳入の内訳】

(単位：千円・%)

区 分	決 算 額	内 訳		決 算 額 構 成 比
		特定財源	一般財源	
市 税	6,791,242	0	6,791,242	16.39
譲与税・交付金	2,088,018	0	2,088,018	5.04
地方交付税	15,555,095	0	15,555,095	37.54
分担金及び負担金	313,493	276,231	37,262	0.76
使用料及び手数料	283,929	273,633	10,296	0.68
国庫支出金	5,438,986	4,371,615	1,067,371	13.13
県支出金	3,226,514	3,094,250	132,264	7.79
財産収入	258,338	67,811	190,527	0.62
寄附金	133,058	122,053	11,005	0.32
繰入金	114,061	114,061	0	0.27
繰越金	1,699,119	252,406	1,446,713	4.10
諸収入	740,733	689,397	51,336	1.79
市債	4,792,221	4,537,400	254,821	11.57
歳入合計	41,434,807	13,798,857	27,635,950	100.00

現在三次市内に4つの美術館がある。

奥田元宋・小由女美術館

はらみちを美術館

美術館あーとあい・きさ

三良坂平和美術館

・奥田元宋・小由女美術館

～日本で一番、月が美しく見える美術館～

広島県三次市出身の芸術家である奥田元宋・奥田小由女夫妻の作品を収集・保管・展示公開し、その業績を広く顕彰するとともに、地元ゆかりの芸術家の紹介、また国内外の優れた美術作品や日常に見え隠れする芸術・文化を紹介する企画展覧会を実施。

また『市民参加型の美術館』として、美術館ボランティアによる美術館事業への協力や市内の学校への学習支援活動など、地域に根ざした活動を行い文化都市としての意識を高めて、活力あるまちづくりに寄与する。



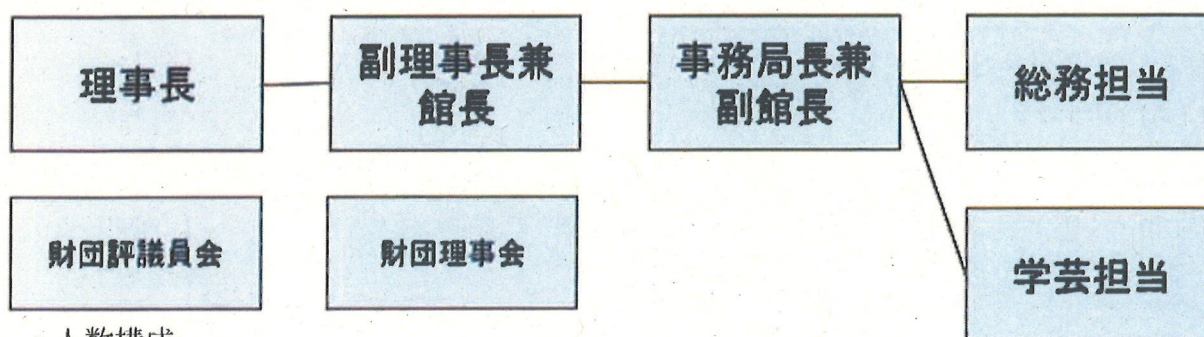


・奥田元宋・小由女美術館建設の経緯

- 2001年9月 三次市議会総務常任委員会で美術館建設構想を説明
- 2001年12月 三次市議会に美術館建設調査特別委員会を設置。
- 2003年5月 財団法人奥田元宋・小由女美術館設立発起人発足
- 2004年8月 美術館建設着工
- 2005年3月 財団法人奥田元宋・小由女美術館設立
- 2005年12月 美術館竣工
- 2006年4月15日開館

※合併特例債を財源として建設予算を充てたとのこと。

・運営体制



・人数構成

- 財団職員 8名
- 市職員 3名
- 合計 11名
- ※常勤8名

ボランティア200名

・サポートメンバー制度

美術館のファンになっていただき定期的に訪問していただけるようなサポートメンバー制度（他館では「友の会」）を導入。

区分	年会費	常設展優待	企画展優待	ショップ等優待
個人一般会員	3,000円	無料	年2回まで無料	5%割引
個人特別委員会	10,000円	無料（同伴者1名様まで）		
法人会員	50,000円	1回につき5名様まで無料		
法人特別会員	200,000円	社員証提示で無料	別途設定	

運営予算（単位：千円）

	収入	支出	収支差額	入館者数（人）
令和5年度	101,694 指定管理料 42,796 入館料 9,919	105,085	△3,391	16,831
令和4年度	145,375 指定管理料 42,796 入館料 39,041	153,906	△8,531	54,175
令和3年度	135,691 指定管理料 42,796 入館料 40,968	159,525	△23,834	56,982

※

上記は基本財産を除く年間の運営に係る決算数値
赤字額の補填は基本財産を取り崩して行っている
令和3年度はコロナ禍による休館有
令和5年度は9/1～翌年3/31の間空調工事のため休館

3. 美術館運営における問題点及び今後の課題

・施設面での課題

2019年度 常設展示室リニューアル事業
休憩コーナーと小由女展示室のケース増設工事
HPリニューアル SNS活用促進
2020年度 常設展示室照明のLED化
2021年度 企画展示室証明のLED化 空調リニューアル実施設計
2022年度 空調リニューアル入札実施

2023年度 空調リニューアル工事実施

・ボランティア制度の課題

応募者数の減少

登録者の高齢化

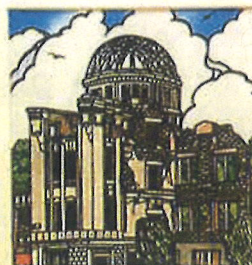
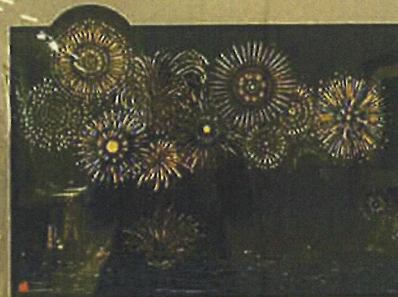
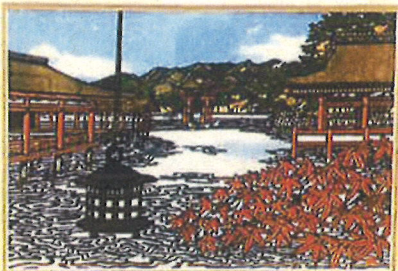
・資金面での課題

物価上昇、入館者数低迷により指定管理料での運営が困難

・人員面での課題

所属の異なる職員が混在することによる混乱

■参考＜展覧会＞ 久保修 紙のジャポニスム ～切り絵 線のかたち～



4. 今回の視察からの考察、美祢市で実施する上での課題

考察するにあたって文化庁による美術館の定義を述べると、「美術館とは、研究・教育・楽しみの目的で美術作品及び関連資料を収集し、保存し、研究し、利用に供し、また展示を行うことを通じて、社会とその発展に貢献する公共の非営利常設機関である。」と

のこと。また利用者の側からみれば、美術館という「美」が集約された空間の中で、優れた美術作品に直に触れ、深い感動を覚えることにより、豊かな感性を育てる場であるとともに、知的欲求を充足する場である。

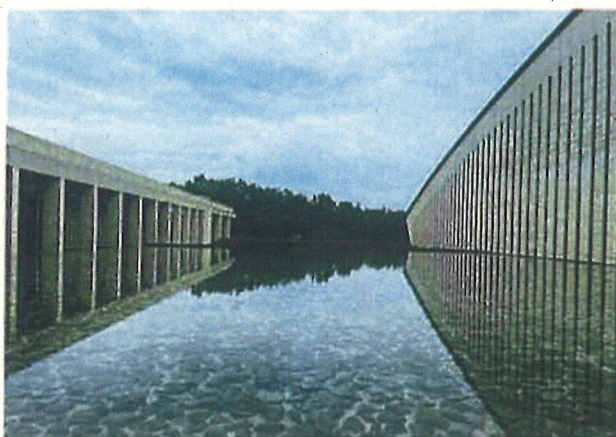
このことから美術館を設立するメリットには十分だが問題は運営・維持のための費用面である。

三次市においては指定管理料として年間約4,300万円の支出、また美術館の運営予算は年間1億～1.5億の支出が計算され、直近3年間の収支を平均すると年間1,200万円の赤字を抱えながら運営している。サポートメンバー制度の新たな料金体系の創出、様々な企画展の実施を行い収入の拡大を目指しているものの、財政的に厳しい状況であるとのことだった。

その中で、我々が美祢市に美術館を必要とする一つの理由が今回の奥田元宋・小由女美術館建設で企画展示されていた久保修切り絵画家の存在である。美祢市出身でもある久保氏は2009年、文化庁文化交流使に指名され、2016年フィラデルフィア日米協会より国外では初の「最高芸術賞」受賞。2019年山口県文化功労賞及び文化庁長官表彰を受賞。2024年8月令和6年度外務大臣表彰。その他、年賀はがき、切手、商品パッケージのデザインも担当するなど多方面で活躍している。国内外から評価を受ける久保氏のような美祢市出身者が存在するにもかかわらず、美祢市に芸術の文化を広げる美術館がなく、また芸術家をたたえる施設がないのは大きな機会損失である。

今後のまちづくり計画の際には、美術、芸術を広げる機会の在り方を念頭に置き、美術館の有無を検討してもらいたい。

◇参考写真



5. 視察先の取り組み（大山町）

・鳥取県大山町

人口：14,873人

世帯数：5,566世帯

面積：189.83平方キロメートル

気候：年間平均気温15℃

最高気温37.5℃

最低気温-7.6℃

年間降雨量1801.6ミリメートル

・財政状況

一般会計歳入総額：124億2,302万円

一般会計歳出総額：117億1,390万円

普通会計市債残高：89億円

普通会計基金残高：64億円

実質赤字比率：赤字なし

連結実質赤字比率：赤字なし

実質公債費比率：9.9%

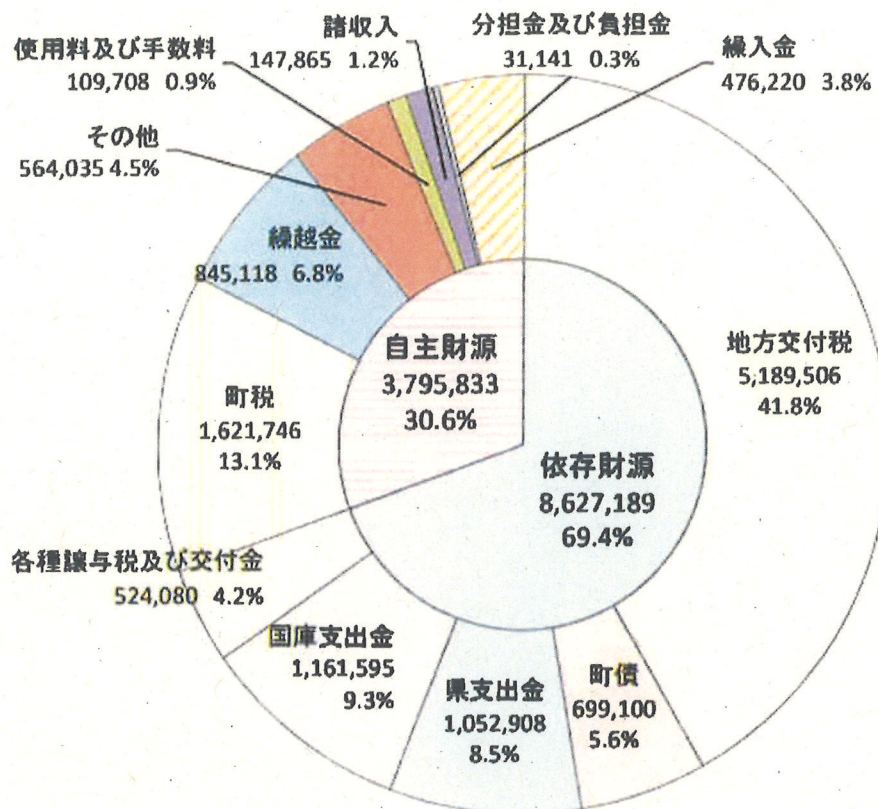
将来負担比率：0

経常収支比率：93.3%

【歳入】

区分		令和4年度		令和3年度		比較	
		決算額	構成比	決算額	構成比	増減額	増減率
自主財源	町税	1,621,746	13.1	1,575,474	12.1	46,272	2.9
	分担金及び負担金	31,141	0.3	42,771	0.3	△ 11,630	△ 27.2
	使用料及び手数料	109,708	0.9	108,786	0.8	922	0.8
	財産収入	68,957	0.5	185,668	1.4	△ 116,711	△ 62.9
	寄附金	495,078	4.0	512,551	3.9	△ 17,473	△ 3.4
	繰入金	476,220	3.8	322,819	2.5	153,401	47.5
	繰越金	845,118	6.8	499,508	3.8	345,610	69.2
	諸収入	147,865	1.2	107,984	0.8	39,881	36.9
	計	3,795,833	30.6	3,355,561	25.6	440,272	13.1
依存財源	地方譲与税	112,051	0.9	109,105	0.8	2,946	2.7
	利子割交付金	868	0.0	1,381	0.0	△ 513	△ 37.1
	配当割交付金	6,779	0.1	8,368	0.1	△ 1,589	△ 19.0
	株式等譲渡所得割交付金	5,384	0.0	8,744	0.1	△ 3,360	△ 38.4
	法人事業税交付金	18,056	0.1	20,127	0.2	△ 2,071	△ 10.3
	地方消費税交付金	351,603	2.8	347,790	2.7	3,813	1.1
	ゴルフ場利用税交付金	7,704	0.1	7,562	0.1	142	1.9
	自動車取得税交付金	5	0.0	26	0.0	△ 21	△ 80.8
	環境性能割交付金	9,029	0.1	8,095	0.1	934	11.5
	地方特例交付金等	11,126	0.1	62,282	0.5	△ 51,156	△ 82.1
	地方交付税	5,189,506	41.8	5,360,001	41.2	△ 170,495	△ 3.2
	交通安全対策特別交付金	1,475	0.0	1,708	0.0	△ 233	△ 13.6
	国庫支出金	1,161,595	9.3	1,399,453	10.8	△ 237,858	△ 17.0
	県支出金	1,052,908	8.5	1,536,718	11.8	△ 483,810	△ 31.5
	町債	699,100	5.6	770,100	6.0	△ 71,000	△ 9.2
	計	8,627,189	69.4	9,641,460	74.4	△ 1,014,271	△ 10.5
	計	12,423,022	100.0	12,997,021	100.0	△ 573,999	△ 4.4

(単位 千円)



※その他は財産収入と寄附金

<大山アウトドアライフ構想>

→大山アウトドアライフ構想とは

豊かな自然環境を活用したアウトドア基盤を整備することにより、大山の恵みとの共生が図られるライフスタイルを構築し、「観てよし」「居てよし」「住んでよし」となる持続可能な地域の実現を図るもの。

⇒アウトドアの要素を各施策に取り込み、アウトドアと町民生活の親和性を高め、かつ対外的にはそのようなライフスタイルをブランディングすることで、観光のみならず、移住や定住にも資する多方面への取り組みに広げる。

○構想の位置づけ

大山町総合計画（大山町未来づくり10年プラン）を具体的な施策に読み下していくことで紐付く施策の方向性の1つ。アウトドアがキーワードとなる事業について、部署横断的に連携を図りながら、SDGsの観点で推進していくためのビジョンの共有を図るもの。

ex) サイクルツーリズム…自転車に乗ること自体や旅行の工程で自転車を活用して、自然文化、歴史色などを楽しむ。⇒健康・商工・建設とも関連。

ex) エコツーリズム…地域に昔から根付いている自然環境習慣、文化などを観光しつつ環境保護の大切さを考える。⇒教育・環境・農林水産とも関連

①構想に至る経緯、現在の進捗

伯耆国大山開山1300年祭以降、大山圏域での広域観光によって調整されたレガシーを継承するとともに、大山町内における滞在時間の延長及び修正を高めるため、本町の海と山をつなぐアウトドア環境整備とアウトドアや文化、歴史等、五感で楽しめるアクティビティの充実を図る大山町観光戦略に基づく施策に取り組み始めた。

持続可能な観光地域づくりのためには、観光課が所管するツーリズム分野だけではなく、町全体での取り組むことが必要不可欠。観光課で先行して進めるアウトドア環境整備から、町全体へ幅広い取り組みとして展開していくためのビジョン共有を図るため、構想の作成に取り組んでいる。

平成30年度（観光施策の軸の検討）

大山町の今後の観光行政を取り組む上で、方向性（観光施策の軸）を定めるように町長から要請を受ける力を入れるべき軸を作り向かうことで成果を出していくため、年末から年度末にかけて観光戦略の方向性テーマを検討した。

<方向性・テーマ>

「大山町の環境に配慮し、大山町の資源を生かしたアクティビティが楽しめる持続可能な観光地域づくり」

平成31年度（令和元年度）

観光戦略のテーマに沿って何ができるか検討を重ねる。年度末には令和2年度から令和6年度を新たな経過期間となる。「第2期人・くらし・しごと創生総合戦略」において以下に取り組むことを記載した。

「観光施策、インバウンドの推進」

アウトドアや自然・歴史・文化に触れるアクティビティを充実させ、年中楽しめる体験型観光のメニューを町内全域で展開できるよう、周遊拠点の整備や機能強化事業者、育成やスタートアップの支援事業者間の連携、強化等を図ります。注目度が高いフォトログイニングやサイクリング、アウトドアアクティビティは豊かな自然や伝統文化・歴史といった農村環境の体感のみならず、健康づくり、防災教育にも寄与する取り組みであり、さらなる活用を進めます。また、海外に住んでいた経験のある人材を積極的に受け入れ、外国人目線による大山ブランドの発疹や商品、開発などインバウンドへの展開も推進します。

令和2年度

地方創生推進交付金事業及び企業版ふるさと納税の募集に関して、豊かな自然環境やアウトドア活用の視点での事業（アウトドアのまち、アウトドアタウン）を検討するとともに、アウトドアと文化、歴史と絡めたアクティビティを活用して、海空山までの体験・潜在型観光を推進するための大山町観光戦略の案を作成した。

令和3年度

大山町観光戦略を4月に策定した地方創生推進交付金事業で計画したものの、うちへE-MTB購入、常設MTBコース、サイクルツーリズム推進事業を実施。同時に海のアウトドア拠点整備、山香壮キャンプ場機能強化、スキー場グリーンシーズン活用、課題解決型アウトドアイベントを検討した。モンベルから企業版ふるさと納税5,000,000円の寄付を受ける。

令和4年度

大山町観光戦略に位置づける取り組みも、散り散りバラバラの事業として捉えられがちなため、大きなビジョンを共有し、体系的な取り組みとして説明するもの、理解を促進するものとして、アウトドアを軸とした施策を進めるという構想を作成した。

②今後の具体的な計画

○エコな移動等による脱炭素

- ・家庭用発電設備等導入推進補助金

分散型エネルギー供給構造の構築及び地球温暖化対策として実施

- ・サイクルトレイン(・バス) 導入検討

サイクリストや日常生活への利用可能性をJR・県に働きかけ

- ・アドベンチャー、ツーリズムの商品化

アウトドア事業創業支援、アウトドアアクティビティ、造成支援

補助制度を創設し、事業者のスタートアップ支援とアウトドア事業の展開による地域活性化

- ・森林セラピー視察

視察により、森林活用を希望する事業者への補助制度を検討する見込み

クオリティ・オブ・ライフの向上

ねんりんピックレガシーコース活用(次年度以降)

- ・ねんりんピックを機に講座を企画して、サイクルスポーツの裾野を広げる

○健康年齢の延伸

- ・自転車での健康づくりイベント、健康にも役立つ自転車での健康づくりを提案するイベントを開催。

◇DMOとの方向性のすり合わせ

観光振興は、人口減少に伴う域内消費の減少及び生産年齢人口の減少による地域経済の衰退に対し、観光を1つの手段として域外から交流、関係人口の創出を図り、地域の稼ぐ力を引き出し、地域経済の活性化を図るための経済施策の1つ。

町では、DMOを設立に向けて、本町の現状の把握、設立後の戦略、アクションプランについて検討を進めている。アクションプランでは、観光戦略の5つのテーマ

○土台となる自然環境

○自然歴史、色の磨き上げ

○多様なアクティビティーの提供

○持続可能な仕組み

○地域全体を活用する観光

を継承しつつ、官公庁のDMOを登録制度ガイドラインを踏まえ、具体的かつ誘客効果が期待できるものとなるもので検討中。DMOに期待される機能の1つとして観光まちづくりの観点から、社会経済の変化に即応して戦略等を随時修正していくことがある。その中で、既存の観光戦略との齟齬が生じた場合は、必要に応じて観光戦略の改定を行っていくことは大事なことである。

アウトドアライフ構想は、総合計画の基本理念を実現するための酵素であり、観光分野に限ったものではなく、観光戦略と競合するものではない。観光戦略を見直し、修正していく上でどちらかを優先するというものではないと考えている。

③アウトドアメーカーとの提携内容について(キャンプ場誘致など)

アウトドアメーカーとの提携は、モンベルと包括連携協定を締結しているのみ。

キャンプ場は町所有が1カ所(山香荘)、環境省2カ所(下山、豪円山)、民間1カ所(森の国)がある

中山活性化センター周辺エリアのサウンディング調査によりキャンプ場の事業提案あり。事業化の可能性について調査中。

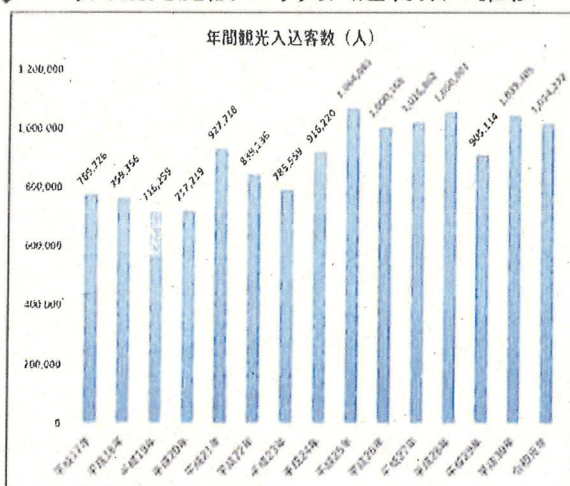
④アウトドア絡めた、ふるさと納税の状況について

返礼品としてツアーメニューを提供しているモンベルのふるさと納税サイトも活用している。令和5年度ふるさと納税額は5億5千万円。

⑤アウトドアによる人口定住について

内部資料にはなるが、入社アンケート調査結果によると、1の決め手になった理由の第二が自然が豊か。ちなみに大地は実家があるとなっており、アウトドアライフを定住につながっていると考えている。

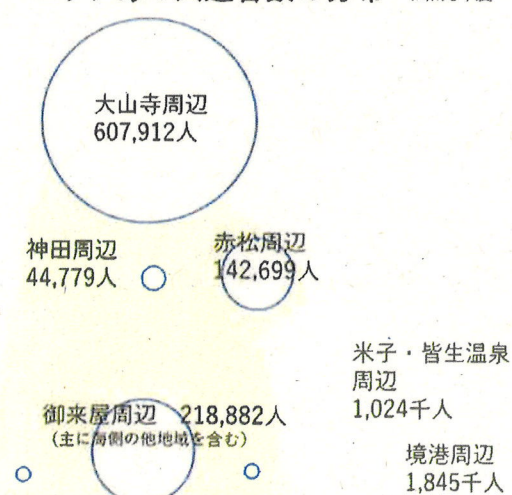
◆ 町内観光施設の年間入込客数の推移



(出典) 観光客入込動態調査より

平成17年769,726人 ⇒ 令和元年1,014,272人
町内主要観光施設において約24万人の増加

◆ エリア毎の入込客数の分布 令和元年度



入込客数の上位3つの観光施設(令和元年)
道の駅大山恵みの里 162,041人
大山スキー場 118,165人
大山ナショナルパークセンター 96,269人

6. 今回の視察からの考察、美祢市で実施する上での課題

大山町のまちづくりの方針で参考になったのはテーマが明確であることである。

<方向性・テーマ>

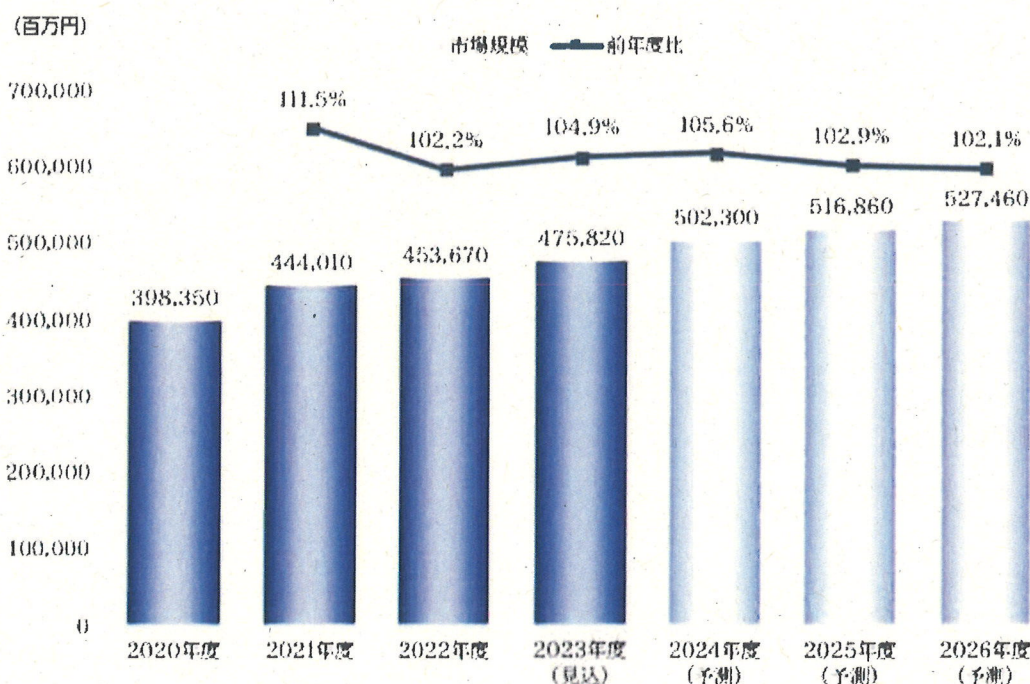
「大山町の環境に配慮し、大山町の資源を生かしたアクティビティが楽しめる持続可能な観光地域づくり」

特に感銘を受けたのは大山アウトドアライフ構想によるまちづくりで、大山を中心にアウトドアを観光だけではなく移住定住など総合的なまちづくりの土台に設けていることである。美祢市は秋吉台というシンボルを抱えながら、どのように活かしていくのかという課題

題を常に持ち続けてきた。もちろん秋吉台で体験できるアクティビティは多々あり、キャンプ、レンタサイクル、レンタルコムス、トゥクトゥク、セグウェイ、ケイビング、ジオツアー等を有している。しかし、秋吉台で体験できるアクティビティの認知度は低く、多くの観光客は認識がないまま素通りしており、また市民の皆さんが上記のアクティビティを利用している声を聞くことはあまりない。これは美祢市だけではなく、多くの自治体で観光地という場所を一番のウリとしてPRしていることも一つの要因に思える。美祢市として秋吉台をどういうテーマで発展、持続可能な地域を作っていくか、大きな参考となった。

また、このアウトドアライフ構想をより成功につなげる要因としてアウトドアメーカーとのタイアップをどう上手につなげていくかということである。大山町ではモンベルがキャンプ場の運営管理や指定管理によるショップ運営を実施しており、これからノースフェイスも令和8年を目途に出店をするとのことであった。

国内アウトドア用品・施設・レンタル市場規模推移・予測



矢野経済研究所調べ

上記のようにアウトドアの市場規模はコロナ以降右肩上がりですり上昇しており、今後もそのように推移していく傾向である。秋吉台を含めた美祢市とアウトドアの親和性が高いことは言うまでもなく、ここを軸にまちづくりを展開していくことは美祢市の強みを押し出す形になるのではないだろうか。引き続き美祢市の参考になる点を探りながら、大山町の経過を観察したい。

◇参考写真
・行政説明



・モンベル大山キャンプサイト





・モンベル大山店



・ 大山参道市場

